

21世紀の地域と暮らしの変化に向き合う！

人口減少や少子高齢化が進むことで、地域社会や私たちの暮らしは、いやおうなしに変化していかざるを得ません。

なかでもインフラ・都市施設の老朽化やコミュニティの劣化・空洞化は待ったなしと懸念されます。一方、情報化技術や医療技術等の著しい進展により、様々な面で今までとは異なる暮らし方に向き合うことが求められます。

今年度はこのような時代環境に鑑みて、21世紀の地域と暮らしについてあらためて考えたいと思います。

No	時間 日	前半 9:20～10:50	休憩 10分	後半 11:00～12:30
1	7/22 (火)	2050年の日本、世田谷、世界はどうなっているか？そして次世代はどう生きるか？ 藻谷 浩介(株)日本総合研究所 主席研究員)		
2	7/23 (水)	住民活動の曲がり角～町内会とコミュニティ・ユニオン～ 北川 由紀彦(放送大学教授)		
3	7/24 (木)	行政、企業、市民でまちの未来を考えよう～公民連携の可能性 難波 悠(東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻教授)		
4	7/29 (火)	巻き込まれる側の AI 学～生成 AI・その実体と負の側面～ 井上 隆史(技術コンサルタント、元日立製作所生産技術研究所主管研究員)		
5	7/30 (水)	「階級都市」としての東京～その空間構造と人々のくらし～ 橋本 健二(早稲田大学人間科学部教授)		

◆ 対 象： 18 歳以上 ※申込が定員を超えた場合は、抽選により受講者を決定します。

◆ 定 員： 各 70 名 ※抽選の際は、区内在住者を優先します。

◆ 受 講 料： 各 2,000 円 (複数受講可)

※受講料は別途お送りする納入通知書により、お近くの金融機関でお支払いください。

◆ 申込期間： 6月1日(日)～15日(日)

◆ 申込方法： せたがやコール(午前8時～午後9時まで年中無休)

電話番号03-5432-3333 ファクシミリ03-5432-3100

【FAXでのお申込みの場合】



市民大学HPからもお
申し込いただけます。

①イベント名、②受講希望講座番号(1～5)、③氏名(フリガナ)、④電話番号、
⑤住所、⑥生年月、⑦在勤者・在学者は名称(会社名、学校名)をご明記ください。

◆ 会 場： せたがや がやがや館 4階 多目的室(世田谷区池尻2-3-11)

各講義の概要

1:2050年の日本、世田谷、世界はどうなっているか？そして次世代はどう生きるか？

藻谷 浩介(株)日本総合研究所 主席研究員)

時代は階段状に変化します。1825年の日本で1850年を予想するのは容易だったかもしれませんが、ですが1850年(ペリー来航3年前)に1875年(明治8年)を見通すには、日本の本質への理解と、世界的な視野が不可欠でした。2025年に2050年を予想するのも似ています。今の東京は幕末の江戸と同じく、世界一出来のいい大都市ですが、中にいると世界や未来は見えません。今飛び交っている噂とは違う未来像をお見せします。

2:住民活動の曲がり角 ～町内会とコミュニティ・ユニオン～

北川 由紀彦(放送大学教授)

少子高齢化や住民の流動性の高まりによって地域の住民活動は1つの曲がり角を迎えています。今回は、住民活動の主要な担い手の一つである町内会・自治会の歴史や特徴を振り返ってその現状と課題を整理するとともに、企業別ではなく地域を基盤とする労働組合である「コミュニティ・ユニオン」が果たしてきた役割や現状について考察し、地域社会における住民活動の新たな可能性について考えてみたいと思います。

3:行政、企業、市民でまちの未来を考えよう～公民連携の可能性

難波 悠(東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻教授)

少子高齢化などが進展する社会では、公共サービスを行政だけで担うことは困難です。都内では人口の増加が続いているものの、ふるさと納税などによる税金の流出や今後急増する高齢者への支援、施設の老朽化、多様化する住民ニーズなど新たな地域の課題も出てきています。暮らしやすいまちを作るために、行政、企業、市民の役割分担、活躍の仕方を一緒に考える機会にしたいと思います。

4:巻き込まれる側のAI学～生成AI・その実体と負の側面～

井上 隆史(技術コンサルタント、元日立製作所生産技術研究所主管研究員)

ChatGPTに代表される生成AIの威力を喧伝する報道がけたたましい。世の中は新たなAIブームとなった。多くの人々はこの新しい技術の正体を知らずに見かけの出来栄に圧倒され、巻き込まれているように見える。我々は得体の知れない新たな電子技術の脅威にさらされているのではないかと？ 生成AIの実体を知り、生活に浸透した電子機器に付加する新たな脅威にどう対処するべきかを考えたい。科学技術の根底にある思想に触れながら。

5:「階級都市」としての東京～その空間構造と人々の暮らし～

橋本 健二(早稲田大学人間科学部教授)

日本では1980年代から格差拡大が始まったが、なかでも東京では極端な格差拡大が進行した。もともと東京23区には、山の手／下町という西高東低の格差構造があったが、これがさらに鮮明になるとともに、新たに貧困地域や富裕地域が形成され、都市分極化が進行したのである。このことは人々の生活にさまざまな格差をもたらすとともに、東京を階級間対立と地域間対立が相互に強め合う、「階級都市」へと変貌させつつある。統計データと社会調査データにもとづいて、その実態を明らかにしていく。